

メキシコ政治情勢（２０２５年１２月）

〔概要〕

【内政】

- １日、シェインバウム大統領は、ロペス・オブラドール前大統領が書籍発表に際して出したコメントについて言及した。
- １日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表した。シェインバウム大統領の支持率は７０％
- ３日、シェインバウム大統領は、「プラン・メキシコ」に関連する投資促進のための協議会を設立することで企業関係者と合意した。
- ４日、連邦上院は、シェインバウム大統領が提出し、連邦下院で可決された水関連法改正案を賛成多数で可決した。
- １１日、シェインバウム大統領は、殺人事件等の重大犯罪の発生率が政権発足時と比較して３７％減少したと述べた。
- ２８日、オアハカ州において、テワンテペック地峡大洋間鉄道が脱線する事故が発生した。

【墨米外交】

- ５日、シェインバウム大統領は、ＦＩＦＡワールドカップ２０２６の組み合わせ抽選会に出席するため、就任後初めて米国を訪問した。
- １２日、メキシコおよび米国は１９４４年水条約に基づき、現在の両国間の水の循環と水不足の解決に向けた水管理について合意に達した。
- １６日、両国間で合意された国境警備・法執行協力プログラムのフォローアップとして、メキシコと米国の安全保障実施グループ（GIS）の第二回会合が開催された。

【その他外交】

- １日、シェインバウム大統領は、メキシコを訪問したターマン・シンガポール大統領と会談した。

[本文]

【内政】

1 ロペス・オブラドール前大統領発言へのシェインバウム大統領の反応

1日、ロペス・オブラドール前大統領が自身の書籍出版にあたり公開した動画において、今後も民主主義と主権への脅威、クーデターの可能性がある場合には公の場に復帰する可能性もあると述べたことに対し、シェインバウム大統領は、動画で前大統領を見ることが出来てうれしいと述べるとともに、幸い、現状は前大統領が言及したような状況にはないと述べた。

2 大統領支持率等にかかる世論調査結果

1日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表したところ、概要以下1のとおり。シェインバウム大統領の支持率は、70%（11月13～18日及び21～24日、全国の有権者1,000名を対象に電話で調査を実施。誤差±3.1%）。

（1）シェインバウム大統領の取組を支持するか。

ア 支持する : 70%（前回（10月、以下同じ）70%）

イ 支持しない : 30%（前回30%）

ウ 分からない : 0%（前回 0%）

（2）マンソ・ミチョアカン州ウルアパン市長の殺害事件

ア マンソ市長殺害事件について知っているか。

（ア）知っている : 87%

（イ）知らない : 13%

イ シェインバウム政権によるマンソ市長殺害事件の捜査の評価如何。

（ア）とても良い、又は良い : 41%

（イ）とても悪い、又は悪い : 49%

（ウ）良くも悪くもない : 7%

（エ）分からない : 3%

ウ ミチョアカン州における治安対策の評価如何。

（ア）とても良い、又は良い : 21%

（イ）とても悪い、又は悪い : 71%

（ウ）良くも悪くもない : 6%

（エ）分からない : 2%

（3）メキシコZ世代デモ

ア 先日のメキシコZ世代デモについて知っているか。

（ア）知っている : 77%

（イ）知らない : 23%

イ Z世代デモへのシェインバウム政権の対応への評価如何。

(ア) とても良い、又は良い：31%

(イ) とても悪い、又は悪い：48%

(ウ) 良くも悪くもない：11%

(エ) 分からない：10%

ウ Z世代デモの主張への評価如何。

(ア) とても良い、又は良い：27%

(イ) とても悪い、又は悪い：47%

(ウ) 良くも悪くもない：16%

(エ) 分からない：10%

エ Z世代デモ活動への評価如何。

(ア) とても良い、又は良い：21%

(イ) とても悪い、又は悪い：55%

(ウ) 良くも悪くもない：14%

(エ) 分からない：10%

(4) シェインバウム大統領へのハラスメント

ア 国立宮殿の屋外で発生したシェインバウム大統領へのハラスメントを知っているか。

(ア) 知っている：72%

(イ) 知らない：28%

イ 大統領の警護の評価如何。

(ア) とても良い、又は良い：59%

(イ) とても悪い、又は悪い：37%

(ウ) 良くも悪くもない：4%

ウ 大統領がハラスメントを行った者を訴えたことへの評価如何。

(ア) とても良い、又は良い：56%

(イ) とても悪い、又は悪い：40%

(ウ) 良くも悪くもない：4%

(5) 各分野におけるシェインバウム政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

(ア) とても良い、又は良い：54% (前回(10月) 52%)

(イ) とても悪い、又は悪い：41% (前回45%)

イ 汚職

(ア) とても良い、又は良い：12% (前回13%)

(イ) とても悪い、又は悪い：80% (前回82%)

ウ 治安

(ア) とても良い、又は良い：38% (前回37%)

(イ) とても悪い、又は悪い： 56% (前回 59%)

エ 組織犯罪

(ア) とても良い、又は良い： 12% (前回 20%)

(イ) とても悪い、又は悪い： 85% (前回 74%)

オ 社会保障

(ア) とても良い、又は良い： 69% (前回 81%)

(イ) とても悪い、又は悪い： 27% (前回 17%)

3 大統領府と企業関係者、投資促進のための協議会を設立

3日、シェインバウム大統領は、「プラン・メキシコ」に関連する投資促進のための協議会を設立することで企業関係者と合意した。投資の加速、官民投資、インフラ、エネルギーといった課題に取り組む予定。

4 水関連法改正案可決

4日、連邦上院は、シェインバウム大統領が提出した水関連法改正案を賛成85票、反対36票で可決した。同改正案は、前日に連邦下院で24時間近くに亘る議論の末に、可決されたもの。今次審議は、連邦上院がこれを「緊急決議」と認定し、通常行われる連邦上院個別委員会での審議を省略して連邦上院本会議での審議へと進めたもの。同改正案は、生水の利用権を整理し、その割当等に関する決定を国家水委員会 (CONAGUA) に一元化することを目的としている。水資源に関する権利が私人間で譲渡されることを禁止し、水資源に関する犯罪に対して罰則や罰金を強化するこの改正案について、農業団体は反対し、国内各都市で抗議活動を行った。

5 重大犯罪発生率の減少

11日、シェインバウム大統領は、国家安全保障評議会の定例会合において、連邦政府と州政府の連携のもと、殺人事件等の重大犯罪の発生率が政権発足時と比較して37%減少したと述べた。大統領は、今後、社会的影響が大きく増加傾向が続いている犯罪の一つである恐喝との闘いを強化するため、連邦レベルでの改革にあわせ、州レベルの法律も統一していく等、全国で結束して取り組むよう呼びかけた。大統領は、治安政策の4つの軸（原因への対処、国家警備隊の強化、情報収集能力の強化、捜査能力の強化）に改めて言及しつつ、この4つの軸のもと、国家情報センターが取組みを強化していることを強調した。

6 テワンテペック地峡大洋間鉄道脱線事故

28日、オアハカ州において、大西洋と太平洋を結ぶテワンテペック地峡大洋間鉄道が脱線する事故が発生し、1月20日時点で、14名が死亡、100名以上が負傷した。同日時

点で、連邦検察庁は引き続き原因を調査中である。シェインバウム大統領は、今回の鉄道事故の全ての被害者に対して包括的な損害賠償を行う旨述べた。

【墨米外交】

1 シェインバウム大統領のFIFAワールドカップ2026の組み合わせ抽選会出席

5日、シェインバウム大統領は、FIFAワールドカップ2026の組み合わせ抽選会に出席するために、就任後初めて米国を訪問した。また、抽選会終了後には、シェインバウム大統領、トランプ米大統領、カーニー加首相との三者会談が行われた。本件に関し、シェインバウム大統領は大統領公式SNSに「3か国の良好な関係について話し合った。貿易については、各国のチームと引き続き協力していくことで合意した。」と投稿している。

2 水に関する墨米合意

(1) 12日、メキシコおよび米国は1944年水条約に基づき、現在の両国間の水の循環と水不足の解決に向けた水管理について合意に達した。メキシコは、15日より、米国に約249億立方メートルの水を供給することを約束した。本合意は、メキシコが水代金の支払いを怠っているとして、その報復措置として、トランプ米大統領がメキシコからの輸入品に5%の追加関税を課すと発言した数日後に発表されたもの。

(2) 国際境界・水委員会(CILA)の333号議定書に基づき、両政府は、米墨国境地域における国境水質浄化問題に包括的、構造的、かつ長期的に取り組むための二国間協力の道筋を正式に確立した。本議定書には、ティファナにおける衛生事業を進めるための技術、財政、ガバナンス上の措置が定められている。また、同地域における長期的な水資源計画を策定し、都市の今後の発展を見通し、将来の危機を回避することを目指したものとなる。なお、米国は北米開発銀行(BDAN)を通じて、メキシコ側のインフラを維持すべく、経年劣化を防ぐための財政的責任を共同で負う。この新たな枠組みは、国境地域の衛生問題の解決は一国のみの責任ではなく、共有の責任であることを再確認するもの。

3 墨米安全保障実施グループ(GIS)の第二回会合の開催

12月16日、両国間で合意された国境警備・法執行協力プログラムのフォローアップとして、メキシコと米国の安全保障実施グループ(GIS)の第二回会合が開催された。会合では前回の会合以降の進捗状況が検討され、特に銃器の密輸に関する協議に重点が置かれた。また、犯罪組織による無人航空機の使用についても分析が行われた。両政府は、武器密輸に関する情報交換の深化と迅速化、武器・弾薬の押収活動の継続、引渡しに関する協力の継続、燃料窃盗に関する捜査の強化に合意し、次回会合に向けて、協調行動の効果を最大化することを目指す。

【その他外交】

1 シンガポール大統領のメキシコ訪問

1日、シェインバウム大統領は、メキシコを訪問したターマン・シンガポール大統領と会談した。会談後、両首脳は、「珊瑚礁の保全における協力強化に関する了解覚書」及び「開発のための国際協力に関する了解覚書」の署名に立ち会った。